

川中島の戦い特別公開 今月の逸品  
**飯縄信仰と上杉・武田家**  
9月11日(火)~10月21日(日)

博物館では、川中島の戦いの特別企画に合わせて、川中島の戦いに関わりの深い資料を今月の逸品として、月ごとに展示します。資料が語る川中島の戦いともいべき特別展示です。上杉・武田両家が深く信仰したとされる飯縄関係資料を展示します。

信州の飯綱、戸隠、善光寺、諏訪は、不思議なことに敵対する上杉謙信、武田信玄の両将に篤く信仰され、その信仰は彼らを継いだ上杉景勝、武田勝頼にも引き継がれました。信濃の覇を争った二人に信仰された飯縄信仰とはどのような信仰だったのでしょうか。

飯綱山(いづなやま・飯縄山とも書く。戦国時代は「縄」を書く場合が多い)は長野市、飯綱町の境界に位置する標高1,917mの山で、山頂に飯綱神社を祀る。飯綱(縄)権現、飯綱(縄)大明神をまつる山は各地で「いづな山」・「いづな山」と呼ばれ、その本山がこの飯綱山である。

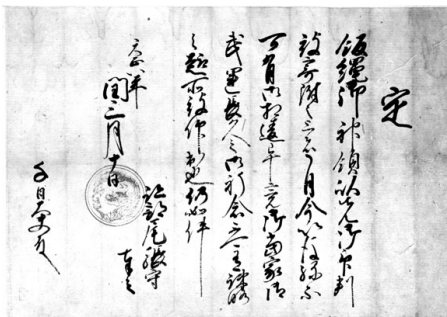
長野市荒安(あらやす)には飯綱神社の里宮があり、武田家より所領を安堵された千日太夫(せんじちたう)と呼ばれた仁科氏が奉仕してきた。飯綱信仰の最盛期はまさに室町、戦国から江戸初期で、飯綱使(いづなつかい)と呼ばれる修験者、行者らにより、中部、東北地方に濃厚に伝承されている。

飯綱権現の御神体は通例、狐に乗った烏天狗(からすてんぐ)で、飯綱修験者は、「飯綱(いづな)の法」を使い、戦勝祈願、相手を呪い殺すなどの役割を担ったとされる。

下野出身の福井嘉平(兵右衛門)が廻国修行の途中、信州の飯綱権現に参籠し、神道無念流(しんどうむねんりゅう)という剣術を開いたとされることから剣術、忍術とも深い結びつきがあると考えられるようになった。武田に仕えた真田の「真田十勇士」のイメージも、こうした飯綱修験者、あるいは戸隠修験者などがもっている。

また、「戦」といえば怪我が避けられないものであるが、飯綱などの修験者は当時の医師(くすし)でもあり、傷を治す薬の調合なども行っていた。飯綱、戸隠などの山は、薬草の産地としても知られ、修験者は自然の生薬を調合し、医師としても武將に仕えていたと考えられる。

飯縄神社文書 早稲田大学中央図書館蔵)



武田勝頼が千日太夫神領を安堵するという内容の文書



上杉景勝が千日次郎太夫に神領を寄進するという内容の文書



飯縄大明神像(永福寺蔵)



上杉景勝甲冑(宮坂考古館蔵)前立に飯縄大明神の神名がある。

次回は国宝・上杉家文書を展示予定です。

長野市立博物館  
〒381-2212  
長野市小島田町八幡原史跡公園内 026-284-9011